

夢大使紹介⑦



渡 邊 俊 弥 氏

株式会社 北星設計 代表取締役
一般社団法人 日本ライオンズ理事
公益社団法人 日本ライオンズ理事

昨今の驚異的な温暖化傾向、自然災害の多発など、ビルに囲まれた虚飾の世界はもはや人の住む場所ではなくなりつつあります。「衣・食・住」という人間としての生きる3原則（いまは少し変わったかもしれませんが）のある街に、生業(なりわい)がきちんと確保される環境が備わった町に再生するべく、この町を外から、ある程度冷静に見られるかもしれない立場から、人材育成のためのお手伝いをするのが私の役目だと思います。そんなに多くはありませんが、これまで培ってきた人脈、企業との連携などお役に立てられれば幸いです。

南三陸町への想い

前回の時も書いたのですが「私たちのルーツである南三陸町（志津川）は東日本大震災の津波のためその形はなくなってしまいました。津波という自然災害に見舞われることの多い土地ですが、あの美しい海や山に囲まれた自然の宝庫はどこに行っても自慢できるものです。それを心にとどめて、決して忘れることなくこれからの人生の伴侶として生きていきたいものです。」

南三陸町との関わり

1951年（昭和26年）10月26日、南三陸町（当時志津川町）大森にて生まれる。佐藤仁町長とは同級生です。
志津川小学校、中学校を卒業して、石巻高校に入学するまでの15年間を南三陸町にて暮らす。
中学時代はバレーボールクラブに所属していました。
その後、37歳で、仙台にて建築設計事務所を開設してから、町の施設等の建築設計、監理を受注するようになり、改めて、ふるさと南三陸町とのかかわりが復活した次第です。
町の施設として設計した代表的な建物は、震災遺構となる防災センター、南三陸斎場などです。

大使としての活動内容

東日本大震災から14年が過ぎました。復興事業（ハード面）が一段落したこれから、真の復興の成果を問いただされることになります。そのためにもこれからの南三陸町を背負う若い人材の育成が、今、最も大切なことだと考えます。
少子高齢化問題、首都圏への若者人口の流入など、若者の人材不足がこの地方においても加速度的に進行しています。どのようにしても抵抗できないと思われるこの潮流に対して、いま南三陸町は、その自然の持つ力を利用した若者が集う新しい魅力のある街づくりで抵抗すべきではないでしょうか。

夢大使紹介⑤



高 橋 遼 平 氏

出光興産株式会社 潤滑油二部
インダストリー技術課
チーフマネージャー

南三陸町との関わり

南三陸町志津川（荒砥 北の又）で生まれ、大学に進学するまでの18年間、志津川の町で育ちました。
小学校時代は、一年を通して半袖短パンスタイルで元気だけが取り柄の少年でした。（※今もあまり変わりませんが…笑）
大学院在学中には、旧志津川高校にて受験勉強のポイントや大学生活についてお話をいただきました。

大使としての活動内容

・経験の伝承 ～南三陸町出身者として～
入社から現在に至るまで研究所、大学、海外での業務を通じて、色々な経験をしてきました。
私自身、まだまだ未熟な身ですが、今までの経験を通して、学んだこと、悩んだこと、努力したこと等をこれからの南三陸町を背負って立つ若手の皆さまにお伝えし、今後のご活躍の一助となればと思っています。

南三陸町のPR活動

職業柄、国籍問わず多くの方と接する機会があります。
一人でも多くの方が南三陸町に足を運んで頂き、身をもって南三陸町を体感して頂けるよう、PR活動に努めて参ります!!
※今年4月から名古屋に転勤になりましたので、今年度は関西～東海地区の南三陸町PR担当として粉骨砕身努力して参ります。

南三陸町への想い

南三陸町の魅力は、実際に『来て・見て・感じて』こそ実感できるものだと思いますので、多くの方に来町頂けるようPR活動、頑張らせて頂きます!!
引き続き『南三陸さんさん夢大使』に委嘱していただき、大変光栄に思っております。
生まれ故郷、南三陸町の活性化に微力ながら貢献していきたいと思っておりますので今後とも何卒宜しくお願い致します。

夢大使紹介⑧



千 葉 充 氏

(株)心花堂 代表取締役

南三陸町との関わり

2008年の仙台・宮城デスティネーションキャンペーンで観光情報を全国に発信するお仕事依頼の長いお付き合いとなります。東日本大震災発災後、「復興市」の立上げや「こども夢花火」の運営など微力ながらお手伝いする事もでき、記念すべき第100回復興市では現在の仕事であるお花屋さんとして出店させていただきました。

大使としての活動内容

スポーツ関連のプロモーション制作とお花の販売という仕事をしておりますので、県内外のスポーツ関係者やファンの方々、お取引先の皆さまに町の素晴らしさ（特に人！）を伝え続けております。そしてこの町から将来のプロバスケットボール選手を出せるよう、地域とスポーツの輪をつなげていきます。

南三陸町への想い

～10年後の花を咲かそう～と震災後の8月に「こども夢花火」で見上げた夜空の風景はこれまでの人生で一番深く心に刻まれております。仙台市民ではありますが、町民憲章を愛し、海のように広い心、山のように豊かな愛を持ちたいと、町民の皆さまのように活動します！大使としての2期目も人生の師であるこの町に少しでも恩返しできるよう努力していききたいと思います。

夢大使紹介⑥



吉 川 由 美 氏

文化事業ディレクター・
演出家

南三陸町とは、2010年から継続している「南三陸みんなのきりこプロジェクト」で、もう16年のおつきあいになりました。いったい何枚、白い紙を切り続けてきたのでしょうか。このプロジェクトを通して、多くのみなさんにかけがえのない思い出の数々をお聞きしてきました。
震災後は、町の小学生たちと歌作りをした「未来を歌に」や写真家の浅田政志氏と住民のみなさんを撮影する「みんなで南三陸」プロジェクトなどを、企業支援をいただきながら、ボランティアとして行ってきました。また、観光協会の広報紙「南三陸」の取材・編集・デザインや、南三陸311メモリアル展示やラーニング・プログラムの制作にも関わらせていただきました。この間、住民の皆様には、さまざまな形で世話になりました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。
震災前の懐かしい町並や、そこで営まれていたみなさんの穏やかな暮らしを、今もよく思い出します。それまでの人生で積み上げた何もかもを失いながら、あのどん底から立ち上がり、支え合いながら今日まで歩んでこられたみなさんのお姿を、感動しながら拝見してまいりました。どんなことがあっても人はやり直せるということ、支え合うことの素晴らしさを、私は南三陸のみなさんから教えていただきました。
これからも南三陸人の明るさ、強さ、素晴らしさを、多くの方々に知っていただけるように、微力ですが活動して参りたいと思います。